

「平成29年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里南小学校】

平成29年4月18日(火)に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語A・B」、「算数A・B」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

(1) 教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A, 算数A	〔主として「活用」〕 国語B, 算数B
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

(2) 児童に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/17chousa/17chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）と本校児童の状況

(1) 教科の調査結果から

国語A（知識）	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	B
国語B（活用）	基礎的な知識・技能を活用する問題	C
算数A（知識）	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	B
算数B（活用）	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

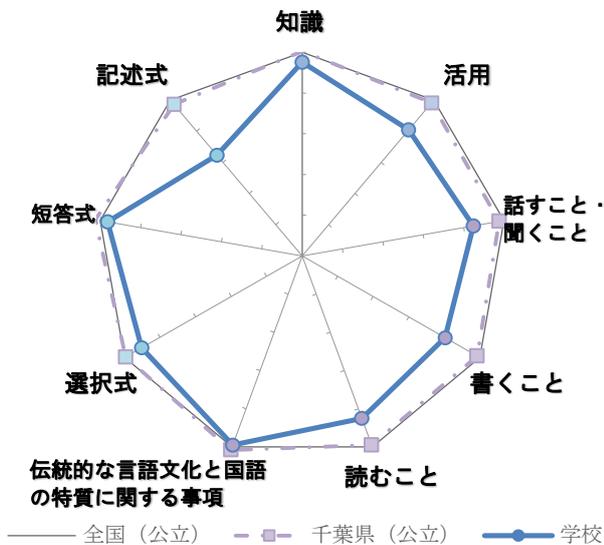
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

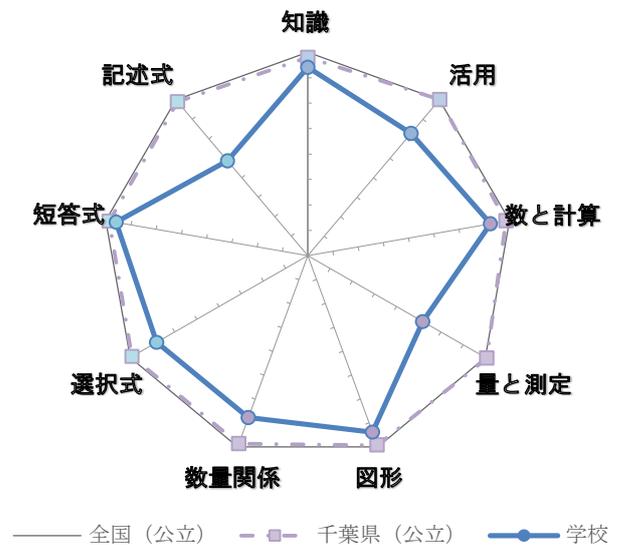
C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) レーダーチャート

<国語>



<算数>



3 結果分析

(1) 学習面について

- 国語、算数ともに「主として知識」の正答率は全国平均と同等ですが、「主として活用」については、差が広がっています。算数よりも国語の方が大きな差がついています。
- 国語では、漢字の読み書きなどの短答式の正答率が全国平均と同等であり、言語についての知識・理解・技能の力は安定しています。
- 国語の「主として活用」にある記述式の問題の正答率が、全国平均を大きく下回っています。目的や意図に応じて必要な内容を整理して書いたり、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話したりする力が不足しています。授業の中で、事実と感想、意見とを区別したり、敬体と常体との使い分けをしたりする指導に力を入れます。
- 算数では、小数の四則計算を正しくしたり、乗法で表すことができる二つの数量の関係を数直線に表したりする問題の正答率が全国平均とほぼ同じです。計算の基礎・基本が身についています。
- 算数の「主として活用」の問題では、ある数値の平均を求める問題、割合を表すグラフを読み取る問題で、どちらも数値を根拠として自分の考えを述べることに課題があります。日常生活の事象を、児童にとってより身近なものなどに置き換え、割合を活用して考察したり、表や図、グラフに表してとらえ、そこから見いだすことのできる特徴や傾向を基に考察したりする訓練を積み重ねていきます。

(2) 児童質問紙調査から (抜粋)

質問番号	質問事項
	結果分析
(1)	朝食を毎日食べていますか
	ほとんどの児童が朝食を食べて登校していることがわかりました。全国平均と比較してもわずかに多いです。朝食を毎朝食べている児童は、そうでない児童と比較して、国語・算数ともに「主として活用」の問題で正答率が高くなっています。
(4)	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか
	うれしかった経験をたくさん積んでいる児童は、その経験が少ない児童と比較して、国語科・算数科のほとんどの領域で正答率が高くなっています。特に国語科の「主として活用」の問題では大きな差となっています。
(14)	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(ゲームの時間は除く)
	1時間単位の回答で、4時間以上を選択した児童の割合が全国平均の2倍あります。3時間以上の割合も高く、スマートフォンでゲームをする時間を加えると、全国平均より更に高くなります。4時間以上を選択した児童は、それ以下の時間を選択した児童と比べて国語と算数共に「主として活用」の正答率が低い傾向にありました。
(18)	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)
	1時間単位の回答で、2時間以上または1時間以上読書をする児童の割合は全国平均より高くなりました。また、1時間以上する児童は、国語科・算数科ともに「主として活用」の問題で高い正答率を示しました。「まったくしない」を選択した児童と1時間以上読書をする児童を比べると、「主として知識」と「主として活用」の両問題で正答率に大きな差が見られました。

4 まとめ

- 根拠となる事柄をもとに、必要な内容を整理して書くことを苦手とする児童が少なくありません。記述式の問題の無解答率は、選択式の問題の無解答率よりも高くなっています。国語に限らず、すべての教科の学習において、「予想」や「まとめ」などで自分の考えを書く経験を積み重ねることが必要です。また、「読む力」なしに「書く力」を高めることはできません。「読む力」＝「読解力」を高めるために、教科書の文章や簡単な新聞記事などを自分のことばで要約するトレーニングを家庭学習にも取り入れることで、文章のキーワードや主題をつかむ力を伸ばしていけると思います。
- 本校児童は、学校だけでなく、家庭でもよく読書をしていて、1時間以上する児童の割合は全国平均以上です。しかし、10分以下の児童の割合も全国平均と比べてとても高く両極端になっています。読書を1時間以上する児童の正答率は、10分以下の児童の正答率と比べて高く、特に「主として活用」の問題で顕著です。日々の読書の積み重ねで、語彙が豊富になるだけでなく、課題解決に必要な集中力を養うこともできます。情報端末の使用時間を少し抑え、読書時間に充てる生活改善をお願いします。学校でも、読書のよさや楽しさを実感できるような指導や雰囲気づくりを心がけていきたいと思えます。